

第 1 8 章

財 政

第 18 章 財 政

1 大阪府の財政

平成 12 年度の普通会計決算額は、歳入 2 兆 6258 億円、歳出 2 兆 6428 億円と前年度に比べて、歳入 0.2%減、歳出 0.7%増となっている。

決算の収支状況を見ると、歳入から歳出を差し引いた歳入歳出差引額(形式収支)は、170 億円の赤字で、事業の繰越などにより翌年度に繰り越すべき財源 213 億円を差し引いた実質収支は、383 億円の赤字となった。また、12 年度の実質収支から 11 年度の実質収支を差し引いた単年度収支は 282 億円の赤字となった。

財政構造の弾力性を判断する指標とされる経常収支比率は 102.9%で、前年度に比べ 2.1 ポイント改善したものの、依然として 100 を超える高い水準にある。

歳入

歳入構造をみると、地方公共団体が自主性を発揮して行政を進める上で重要な要素となる自主財源の割合は前年度と同じく 62.6%となった。

歳入のうち最も大きなウエイトを占める府税収入の決算額は、1兆 1623 億円で全歳入に占める割合は 44.3%となっている。

府債の決算額は 3289 億円で前年度に比べて 3.0%の減となった。これは、建設単独事業の抑制などによる投資的経費の減に伴うものである。

歳出

歳出決算額を目的別にみると、最も大きなウエイトを占めているのは教育費(構成比 29.0%)で以下、土木費(同 18.5%)、公債費(同 11.6%)の順となっている。

前年度と比較すると、補助費等、公債費などが伸びており、これを性質別にみると、人件費が 9832 億円(構成比 37.2%)で最も高く、次いで補助費等の 5221 億円(同 19.8%)、普通建設事業費 3777 億円(同 14.3%)の順となっている。

2 市町村の財政

平成 12 年度の府内市町村普通会計決算額は、歳入 3 兆 8275 億円、歳出 3 兆 8067 億円と前年度に比べて、歳入 4.2%減、歳出 4.3%減となり、歳入歳出ともに減少した。

歳入の特徴をみると、地方税については、3年連続で前年度を下回っており、それ以外については、地方交付税や利子割交付金などが増となったものの、国庫支出金や地方債などが減となっている。

決算の収支状況を見ると、形式収支では 208 億円の黒字で、翌年度への繰越財源を差し引いた実質収支は 33 億円の黒字であり、単年度収支でも、7558 万円の黒字となっている。

また、市町村ごとの実質収支では、黒字団体は 34 団体(23 市 11 町村)、赤字団体は 10 団体(10 市)となっている。

歳入

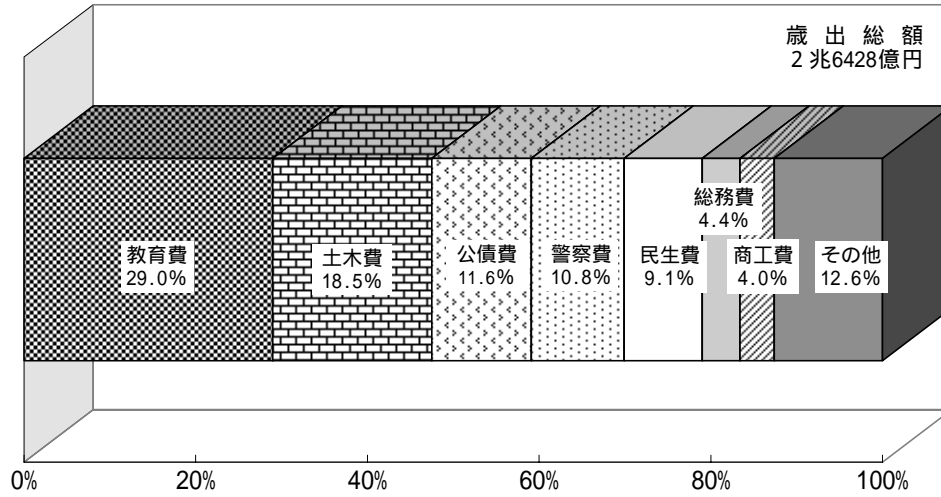
歳入を科目別にみると、地方税は、前年度に比べ 3.6%(612 億円)減であり、歳入総額に占める割合は、43.1%となった。

また、その他の歳入で主なものを科目別に見てみると、地方交付税は、前年度比 11.2%増、繰入金同 5.1%増、国庫支出金同 18.4%減、地方債同 7.9%減となっている。

歳出

歳出を目的別にみると、民生費 9595 億円(構成比 25.2%)、土木費 8362 億円(同 22.0%)、教育費 4428 億円(同 11.6%)、衛生費 4047 億円(同 10.6%)、公債費 4012 億円(同 10.5%)、総務費 3739 億円(同 9.8%)の順となっている。これらを前年度と比べると、民生費 9.5%減、土木費 4.6%減、教育費 0.9%増、衛生費 2.0%減、公債費 2.2%増、総務費 7.6%減となっている。

普通会計歳出決算額の構成（平成12年度）



普通会計歳入決算額内訳（平成12年度）

